

## 平成 29 年度自己点検自己評価まとめ

浦和学院専門学校

### I. 学校経営

組織目標を策定し教職員に周知しており、それに基づき領域会議にて、中長期目標を策定している。また教職員も各自個人目標を策定している。「学校の経営ビジョンを学校以外にも公表すること・目標の中間評価の実施」を行うことと、教職員間のコミュニケーションを活性化し、組織全体が見える風通しの良い環境作りが今後の課題である。

### II. 教育課程・教育活動

#### 1. 教育課程編成に関すること

前年度の課題であった「卒業時に期待される学生像」を教育目標に照らし、知識・技術・態度の側面から明文化を行った。しかし、教育課程評価が不足しており、学校の独自性や社会の要請に応じる内容とはいい難いため、今後の課題である。また、卒業時の到達評価も同様に課題である。

#### 2. 実習に関すること

実習環境や実習施設との協力関係・指導体制に大きな問題はない。前年度の課題であった実習指導者、教員の役割を明文化したマニュアル作成を行い、実習ごとに指導要綱を作成し、実習施設に配布し活用することも行っている。今後は実習時のインシデントについて分析結果を、学生へフィードバックすることが必要である。

#### 3. 授業に関すること

授業評価は外部講師・専任教員ともに実施し、授業の改善に努めている。前年同様、評価結果を各領域で共有し、具体的な改善計画の立案が課題である。

### III. 入学・卒業対策

#### 1. 応募者確保に関すること

入試委員会で検討をし、学校説明会を定期的実施している。また、各高等学校並びに業者開催の学校説明会に出向き学校案内を行っている。看護大学等の増加により志願者数は減少しているが、現状定員は確保できている。前年度の課題であった、入学者の出身校との関係性強化は、一部の学校ではあるが、学生の情報共有を行うことができた。今後、安定した入学者確保を考えた場合、引き続きの関係構築強化が必要である。

#### 2. 質の高い卒業生の輩出に関すること

国家試験の合格率は全国平均を上回っているが、1名の不合格者がいるため、より個別的なきめ細かい指導が必要である。また、成績が振るわない学生には、個別面接や必要に応じて保護者との三者面談を実施している。さらに独自の入学前教育を行いその評価を指導計画に活用し、継続した学生指導を行っている。

退学者数は前年度と変化はないが、休学者も発生しているため、個々の学生に対して、学習継続に向けたよりいっそうの支援を行ない、国家試験合格率 100%、退学率 2%以下を目指したい。

#### 3. 卒業生への支援に関すること

卒業後 4 ヶ月にホームカミングデイを実施し、卒業生からも高い評価を得ている。実習病院への就職者も多く、卒業生へのサポート体制はできていると考える。昨年は学校創立 25 周年記念式典を行ない、卒業生も参加をした。しかし、同窓会システムが正常に機能していないため、卒業後も継続して学生支援ができるようなシステム作りが必要である。

## IV. 学生生活への支援

### 1. 学生相談に関する事

入学時よりキャリア相談を行うとともに、適宜情報提供を行っている。また、就職支援として毎年実習病院を招き、就職説明会を実施している。(早期からキャリアデザインが描けるよう1年次から参加できるシステムである。)

精神的支援として、カウンセラーが週1回定期的に来校し、学生の精神的側面から学業継続をサポートしている。

身体的支援として、インフルエンザやノロウィルスなどの流行時には、感染予防に関して周知・啓発を行っている。また、学校敷地内は完全禁煙とし、禁煙教育を行ない、学生の健康確保に努めている。以上に関しては効果的に機能しているため、今後も継続していく。

今後の課題として、学生の自主的な活動の支援が必要である。

## V. 管理運営・財政

### 1. 危機管理に関する事

防災訓練は、年に1回実施しており、災害時の非常用物品は備蓄している。前年度に引き続き、危機管理マニュアルの策定が必要である。さらに、近隣との協働が今後は必要であると考え、防災への体制作りが求められる。

### 2. 情報管理に関する事

入学時や、進級時に学生に対して個人情報の守秘義務の重要性に関して、説明している。また、学生の実習記録の管理はルール化されており、情報管理に関しては大きな問題はないと考える。倫理委員会が設置されているが、十分な活動がされていない。そのため次年度、教職員にてハラスメント学習会の実施を検討している。

### 3. 財政に関する事

年間計画に基づき計画的に予算・事業執行を行っている。しかし、教職員それぞれが経費削減対策を行っているとは言えないため、今後の課題としていく。

### 4. その他

学校運営の学生の意見が反映されるようなシステムが構築されていないため、今後の課題としていく。

## VI. 施設設備

学生の自主学習スペースは十分に確保できている。また施設も、時間外や長期休業中も使用可能である。しかし、司書配置が出来ていないため蔵書管理が困難であるため、学生の利便性の面からも引き続き課題としていく。

## VII. 教職員の育成

新人教員に対しては、プリセプター制を取り入れ支援している。また、教員のキャリア別達成目標を明文化し、教務部目標・係り、領域目標を基に、各々が年間目標を策定している。その年間目標から具体的年間スケジュールを立て、年度末に結果及び課題を記述した「目標管理シート」の提出を実施している。しかし、教員の「教育実践能力」向上に必要な、授業研究や研究調査活動は十分に行われていない。学会や研修参加に関しても、予算立てはしているが、一部の教員が参加するのみとなっ

---

ている。参加後の伝達講習も実施していないため、今後の課題としていく。また、前年度同様「教育実践能力」向上のため、学校の課題を踏まえた職場内研修も必要であるとする。

## VIII. 広報・地域活動

### 1. 広報活動に関する事

ホームページは定期的に更新しているが、他校との比較をした場合、更なる積極的な広報活動が必要であるとする。自校の広報活動の評価をしっかりと行ない、その結果を活かした広報計画の策定を今後の課題としていく。

### 2. 地域活動に関する事

前年度評価の、地域社会の一員として、地域への広報・貢献・奉仕活動・連携が課題であるということに基づき、地域の清掃活動についてボランティア団体より情報収集をおこなった。また、年末に学生・教員にて学校周辺の清掃を行った。引き続き地域社会の一員として地域への貢献・奉仕活動・連携の工夫を行うことが課題である。

最終結果

